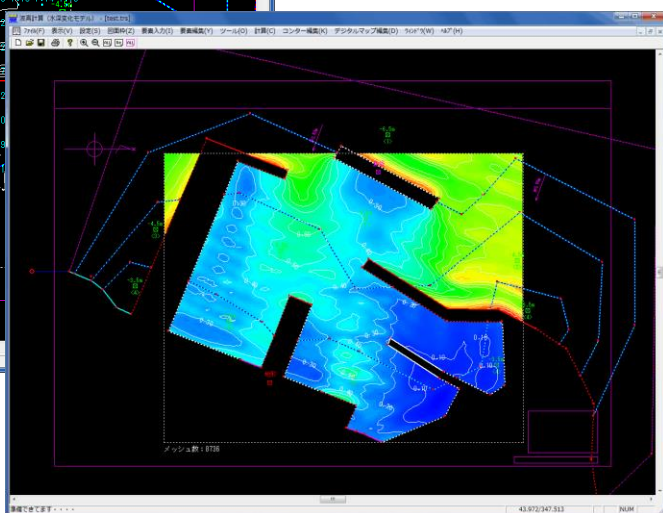
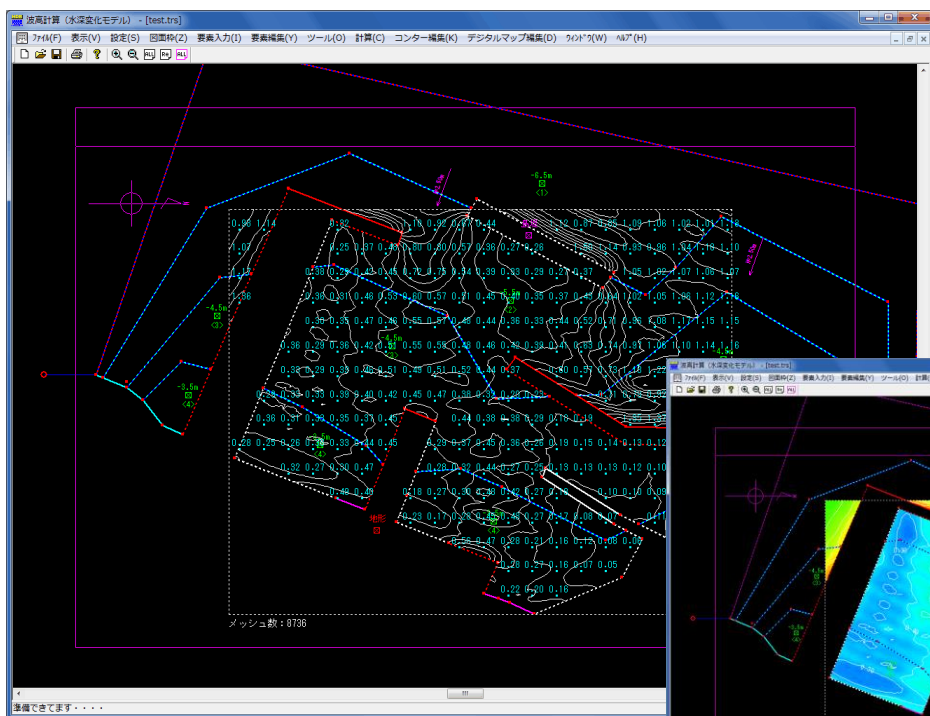


港内波高計算システム (水深変化モデル)



システム概要

- 本システムは、防波堤計画に必要な波高分布をV.L.G関数法（鉛直線グリーン関数法）を使用し、解析します。また、水深変化については、水深を棚形に分割し、領域分割法を用いることにより近似しています。
- 港湾平面形状、波浪諸元に関わらず入力容易で初心者でも一般的に解法が行えます。
- 港湾形状の入力には、DXFファイル読み込み、CSVファイル読み込みなどを用意し、比較的容易に任意形状の入力が可能です。

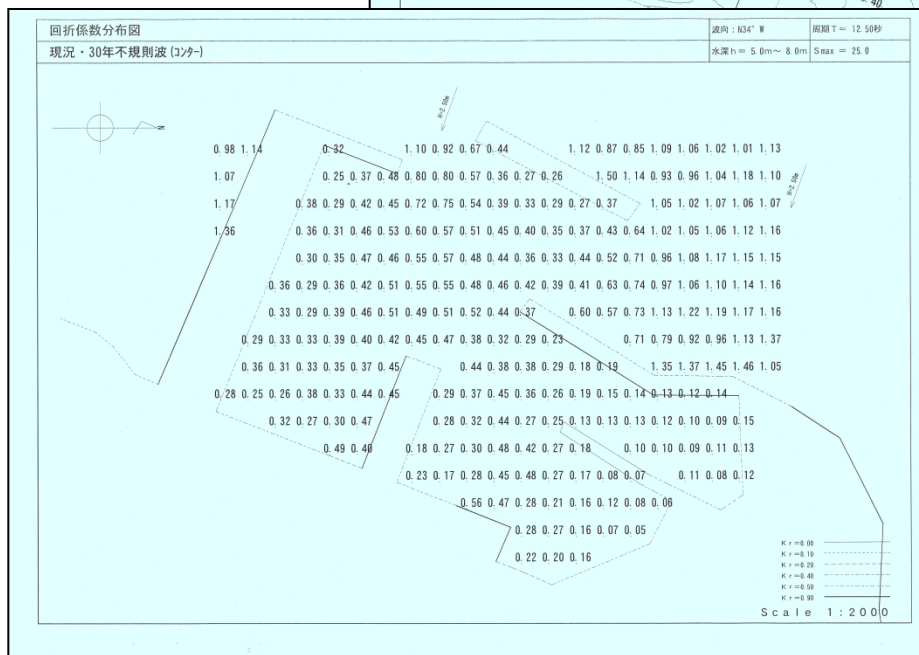
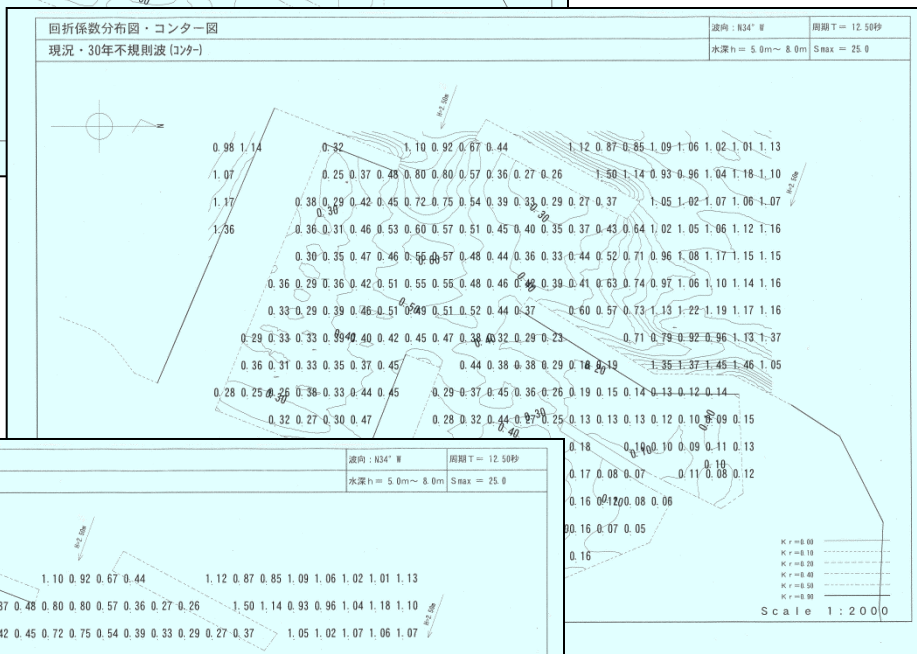
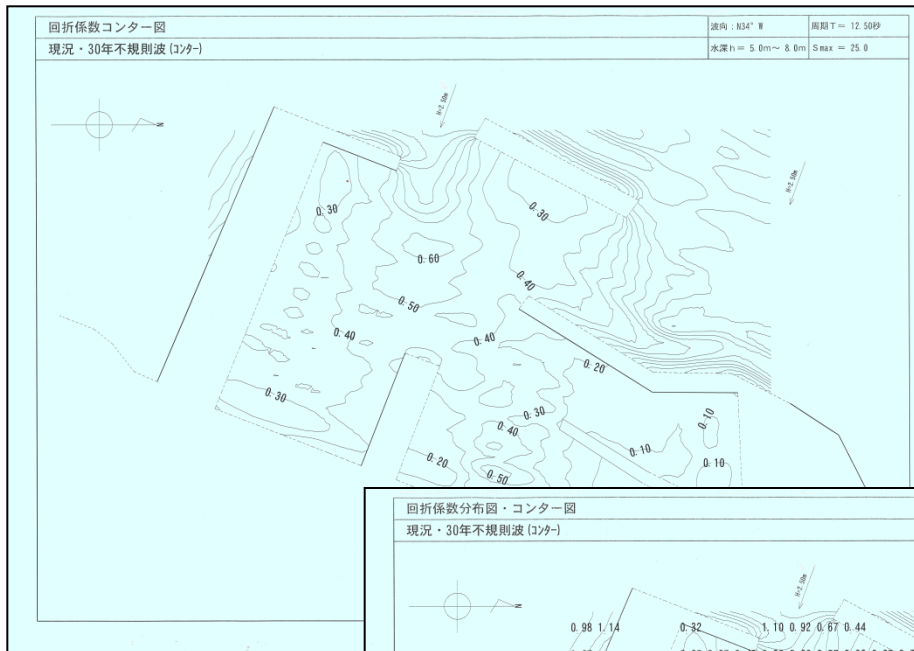
システムの機能

- ①多方向不規則波、規則波の解析が可能です。
- ②計算結果は、定常解となっていますので、境界条件が一致していれば、一定の解析結果が算出されます。
- ③構造物の壁厚が考慮できるため、壁厚が変化する場合の効果も考慮できます。
- ④港内の水深を棚形に分割し、境界分割法を用いて近似することにより、水深変化による波の変形（屈折、浅水変形）を考慮します。＊
- ⑤港外からの進入波、港内における低反射条件を考慮した多重反射、多重回折が考慮できます。
- ⑥港湾境界に任意の反射率を与えることが可能となっています。
- ⑦複数の港湾開口部や遮蔽された領域がある場合でもデータを分割することなく一度に計算可能です。
- ⑧港湾形状の変更や追加などCAD画面を用いることにより、容易に行うことができます。

- ⑨作図図面として以下の4種類の図面を用意しています。
 - ・回折係数分布図
 - ・実波高分布図
 - ・回折係数コンター図
 - ・実波高コンター図
- ⑩分布図とコンター図を重ねて作図することが可能です。
- ⑪コンター線の任意の位置に高さを記入することができます。
- ⑫分布図は、指定した位置から一定間隔で記入できます。
- ⑬作図データがDXFファイル形式に出力可能です。
- ⑭作図イメージが画面で確認可能です。

※ただし、砕波による波高の減衰等の影響は考慮できません。そのような条件の解析を行うことは可能ですが、解析結果の妥当性はありません。

図 面 例



お問い合わせは弊社または下記販売店へ